

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎学校評価資料
—生徒，保護者，教師を対象とする調査結果—

令和2年3月

(1) 調査内容

調査は、生徒、保護者、教員を対象に実施し、次の内容について回答を求めた。

【生徒・保護者用】

- Q1 中学・高校の別
- Q2 性別（生徒の性別）
- Q3 学年
- Q4 組
- Q5 SSH 科目受講の有無

生徒：「学校のように、あなたの1学期から今までの学校生活を振り返ってどう思いますか」

保護者：「学校のようにお子さまの1学期から今までの学校生活をどう思われますか。」

1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：少しそう思う、4そう思う

- Q6 この学校は、学校の考え方や目標をきちんと生徒に伝えている。
- Q7 この学校の先生は、生徒に興味・関心を持たせるため、授業に工夫をこらしている。
- Q8 この学校の生徒は、お互いを認め尊重しあっている。
- Q9 この学校では、先生と生徒がよく信頼しあっている。
- Q10 この学校は、生徒が成長するのにふさわしい環境である。
- Q11 将来の目標を持ち、それに向けて努力している。
- Q12 興味・関心を持って授業を受けている。
- Q13 学習において、予習・復習や課題の提出などに、普段から努力している。
- Q14 他の人の話をよく聞くことができ、また自分の考えを他の人に伝えることができる。
- Q15 よく観察して調べたり、物事を考えたりという、探求の活動に積極的に取り組んでいる。
- Q16 私は他の生徒と協力して活動している。
- Q17 学校で、まわりの人を大切にしている。
- Q18 学校で、挨拶や礼儀に気を配って生活している。
- Q19 学校の決まりごとをよく守っている。
- Q20 学校でやりたいことができ、生活が充実している。
- Q21 今、学校生活において心配や、悩んでいることは特にない。
- Q22 この学校のことを誇りに思っている。

Q6 について、平成 28 年度以前の設問は「将来の目標を持ち、それに向けて努力している。」であったが、本アンケートの調査対象が生徒よりも学校そのものであるとの考えから、昨年度から記載のとおりに変更した。

Q20 について、平成 28 年度以前の設問は「充実した学校生活を送っている」であったが、より具体的な設問とするために、昨年度から記載のとおりに変更した。

【教師用】

Q1	中学・高校の別
Q2	性別
Q3	SSH 関連授業の担当の有無
「1学期から今までのご自身の教育活動を振り返ってください」	
1：そう思わない， 2：あまりそう思わない， 3：少しそう思う， 4そう思う	
Q4	生徒に将来の目標を持たせ，それに向けて努力させている。
Q5	探求的な活動を意識して，生徒に積極的に取り組ませている。
Q6	読解力や表現力の育成を意識して，生徒を指導している。
Q7	生徒に興味・関心を持たせるため，授業に工夫をこらしている。
Q8	予習・復習や課題の提出など，普段から生徒に努力させている。
Q9	生徒のようすをよく把握しながら指導や相談への対応ができています。
Q10	他の生徒と協力して活動するよう指導している。
Q11	人権を尊重した仲間作りを意識して指導している。
Q12	時間を意識した生活をするよう指導している。
Q13	学校にふさわしい服装を意識した生活をするよう指導している。
Q14	教室などの整理整頓や美化を意識した生活をするよう指導している。
Q15	生徒が充実した生活を送れるように努力している。
Q16	本校の教育目標を理解して教育活動を行っている。
Q17	自分の指導目標や考え方は生徒に理解されている。
Q18	保護者への対応は自信を持ってできている。
Q19	職場環境を良くするよう努めている。
Q20	熱意を持って日々の仕事に取り組んでいる。

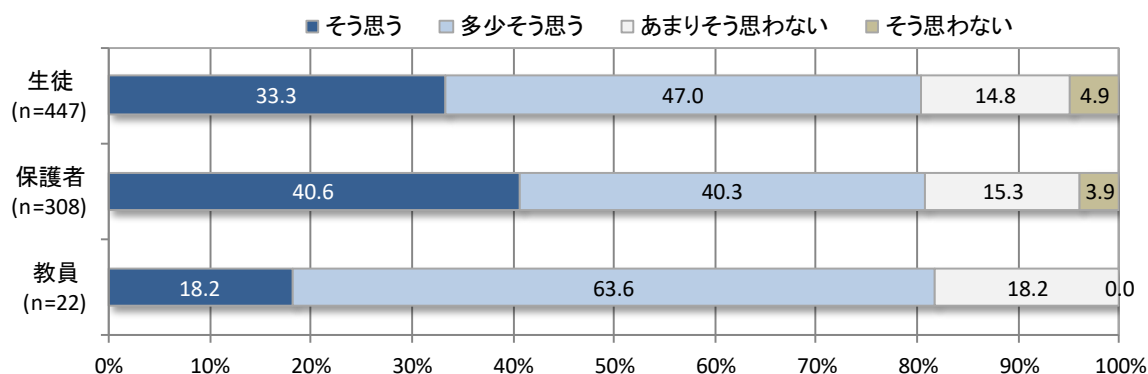
(2) 回答者数

対象ごとの有効回答者数は下表のとおりである。

対象	属性		性別		SSH の学習・指導の有無		学年		
	男性	女性	あり	なし	1年	2年	3年		
生徒 (n=441)	210	231	120	312	151	154	135		
	47.6	52.4	27.8	72.2	34.3	35	30.7		
保護者 (n=308)	151	157	89	218	116	113	76		
	49.0	51.0	28.9	70.8	37.7	36.7	24.7		
教員 (n=22)	15.0	7.0	12	10					
	68.2	31.8	54.5	45.5					
全体 (n=771)	376	395	221	540	267	267	211		
	48.8	51.2	28.7	70.0	35.8	35.8	28.4		

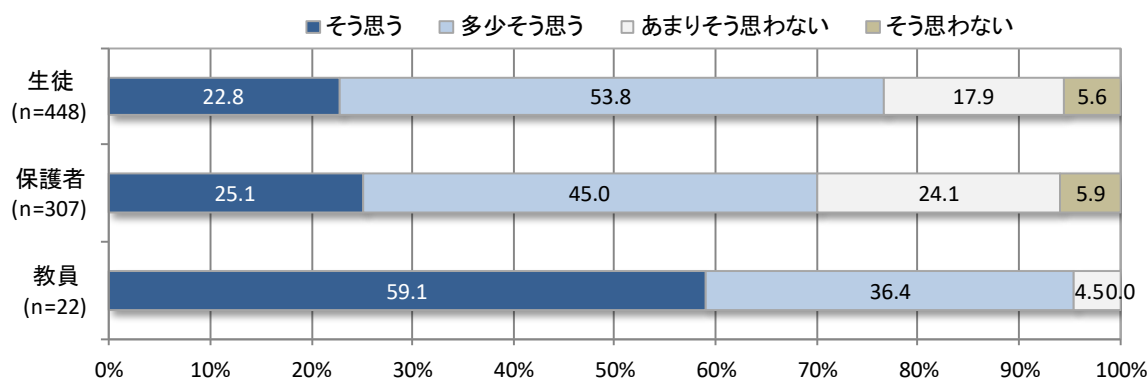
(3) 学校生活にかかわる自己評価の（クロス集計）結果

① 将来の目標



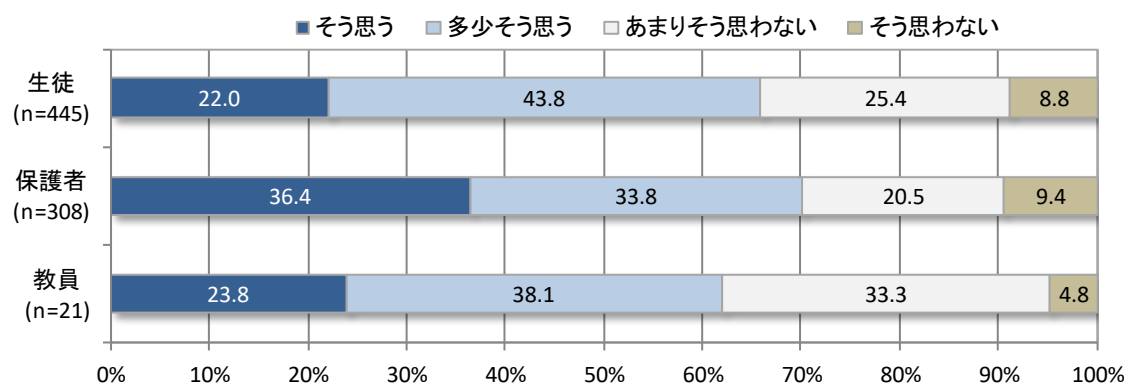
教員，保護者，生徒のすべてに 8 割以上が肯定的な回答をした。

② 授業の工夫 (p<0.01)



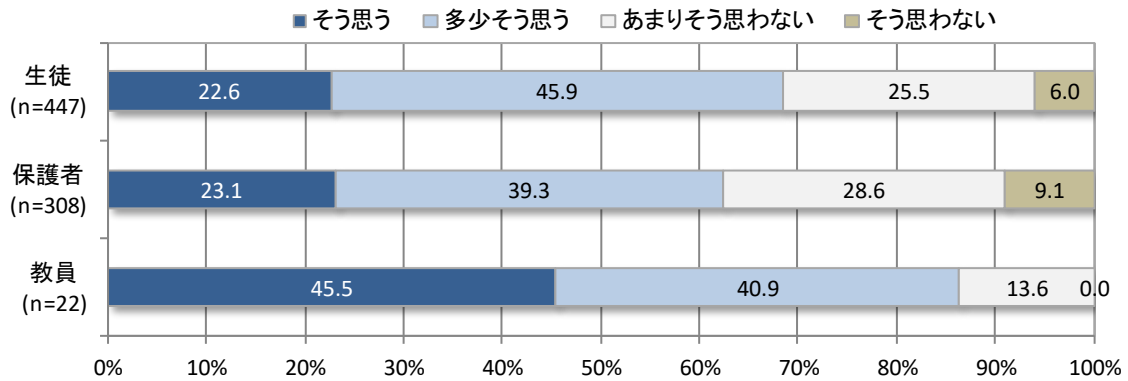
教員の 9 割以上が肯定的だが，生徒，保護者は 7～8 割にとどまった。

③ 予習復習 (p<0.01)



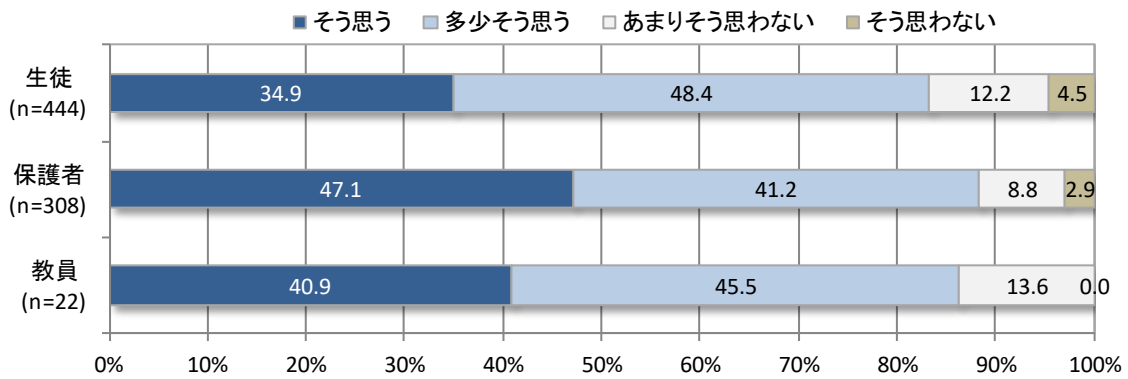
保護者の肯定的な回答の比率は 7 割で，生徒よりも高い。

④ 読解力や表現力 (p<0.05)



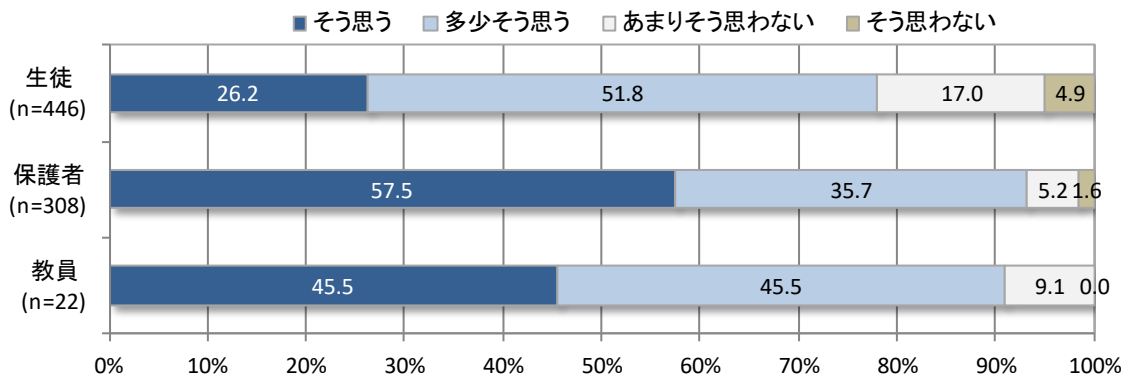
教員は8割以上が肯定的だが、保護者、生徒は7割弱にとどまった。

⑤ 探求的な活動 (p<0.05)



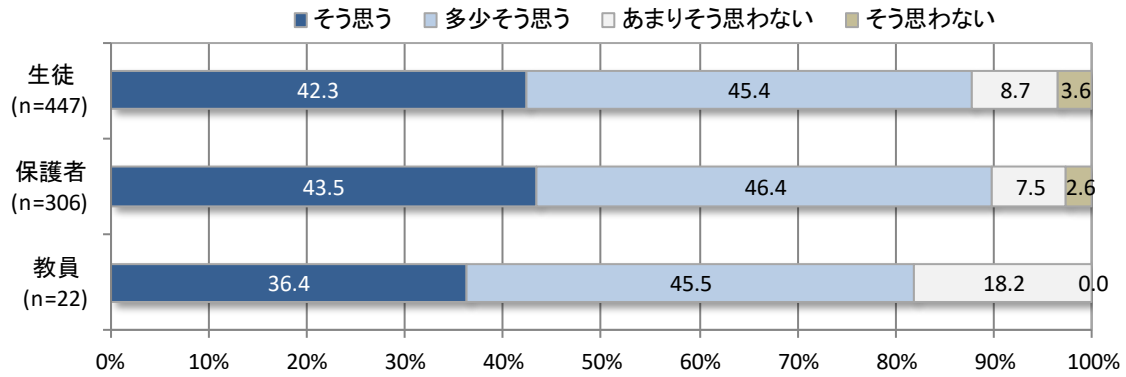
保護者と比べ、生徒の肯定的な回答はやや低かった。

⑥ 他の生徒と協力 (p<0.01)



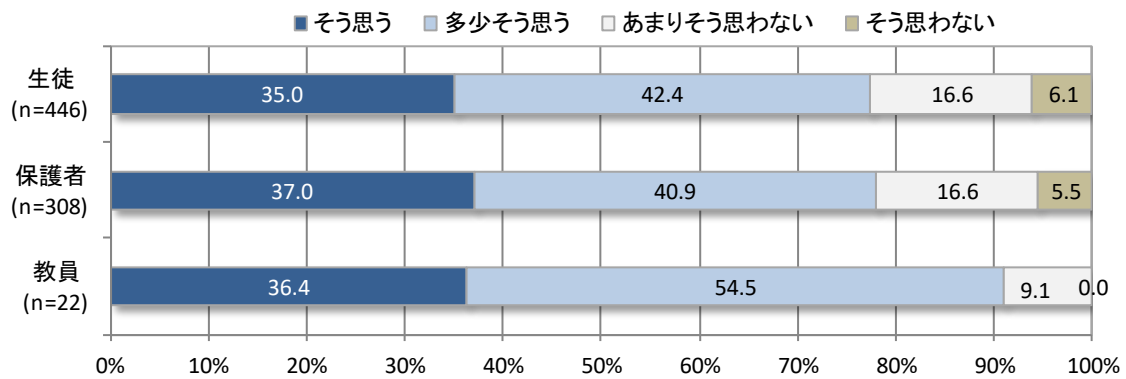
保護者、教員のほぼ9割が肯定的な回答をしているが、生徒は8割弱にとどまっている。

⑦ 人権を尊重した仲間作り



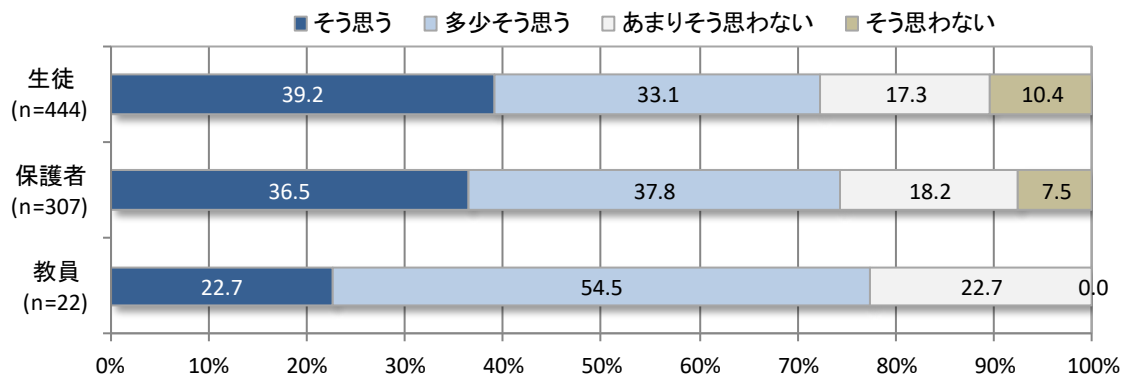
生徒，保護者，教員に有意な差はなく，肯定的な回答が8割を超えている。

⑧ 充実した生活



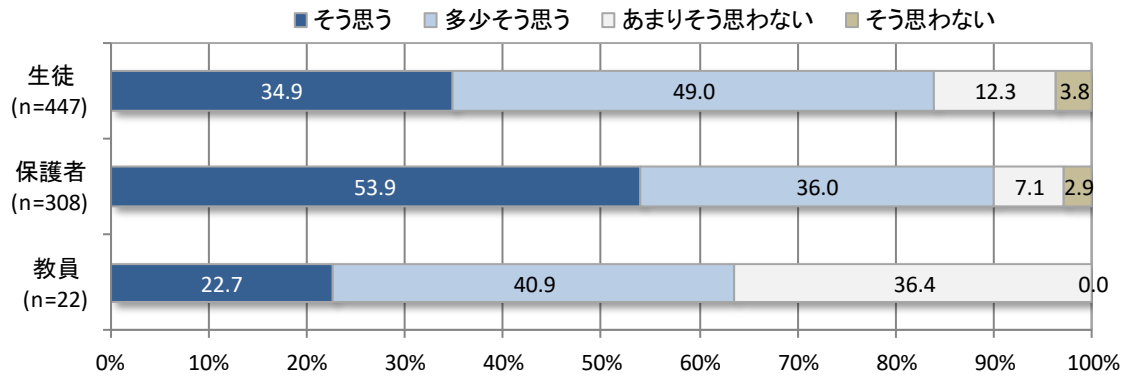
教員の9割が肯定的であったが，保護者，生徒では8割弱であった。

⑨ 生徒の様子への把握



生徒，保護者，教員の回答に有意な差はなく，生徒の3割弱が心配ごとや悩みを感じている。

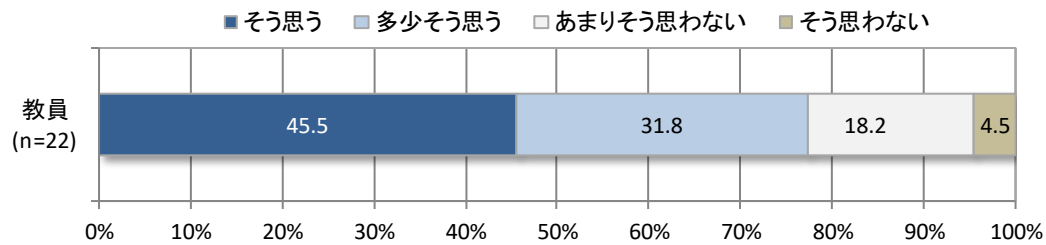
⑩ 決まりの遵守 (p<0.01)



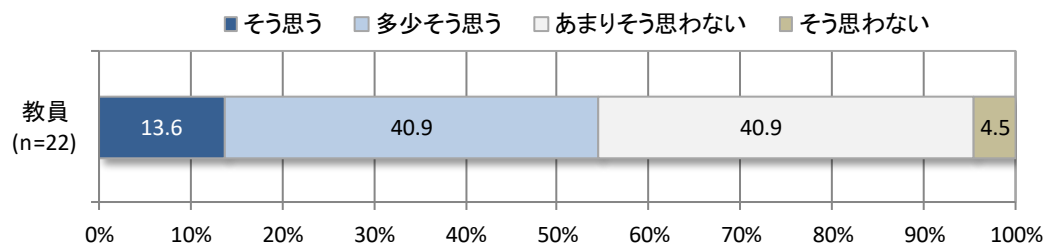
生徒、保護者の8割以上が肯定的である。

注) 教員の「決まりの遵守」は、教師用の「時間を意識した生活を指導している」「身なりを意識した生活を指導している」「教室の整理整頓を意識した生活を指導している」の3つの質問に対する回答の平均で代用した。

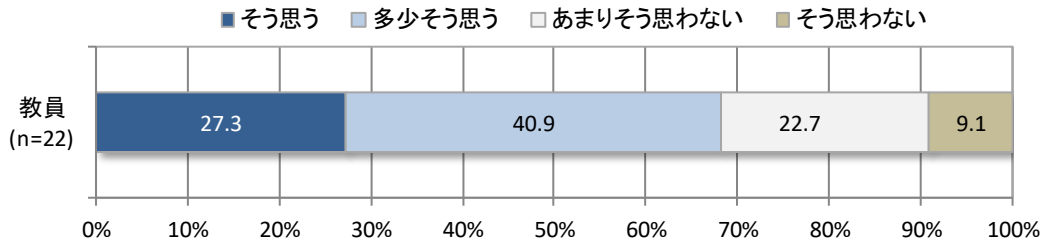
⑪ 時間を意識した生活の指導



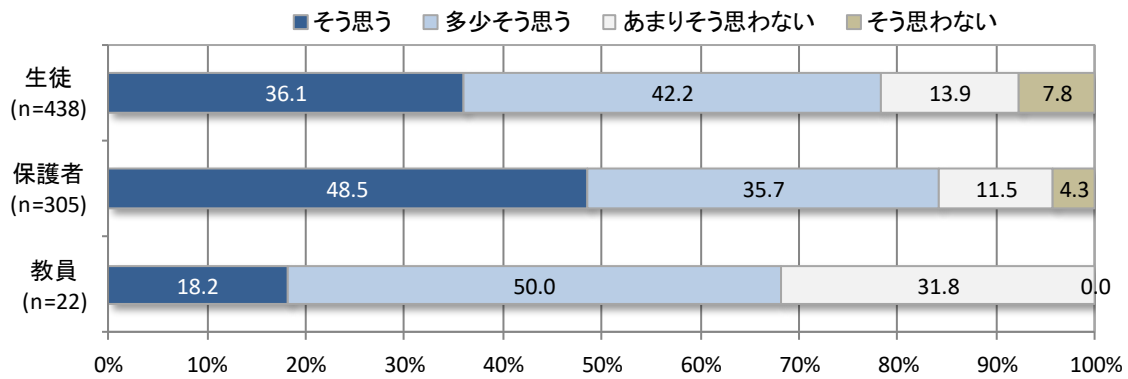
⑫ 学校にふさわしい服装の指導



⑬ 教室などの整理整頓の指導

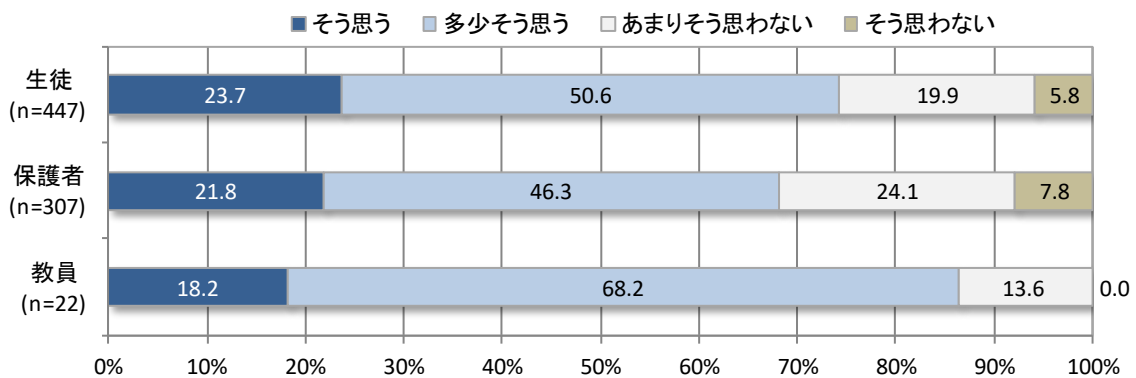


⑭ 学校への誇り（教員は本校の教育目標の理解） (p<0.01)



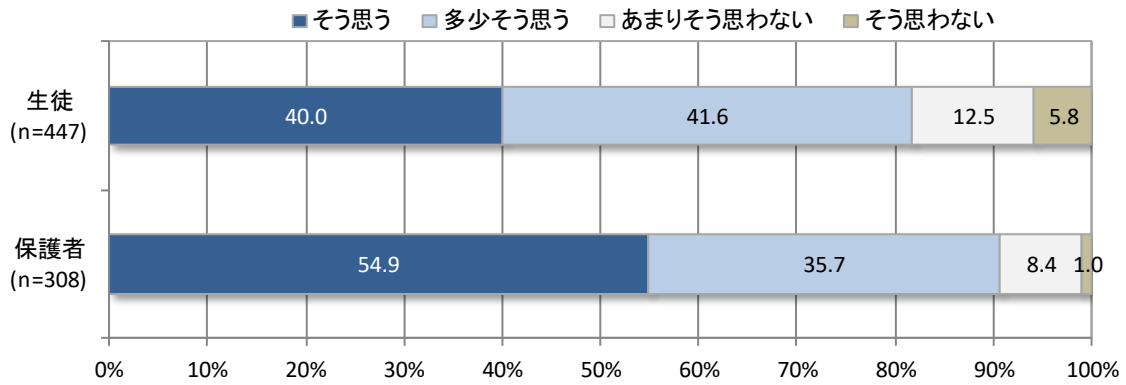
生徒、保護者と比べ、教員の肯定的な回答は10ポイント以上低かった。

⑮ 興味関心（教員は指導目標）

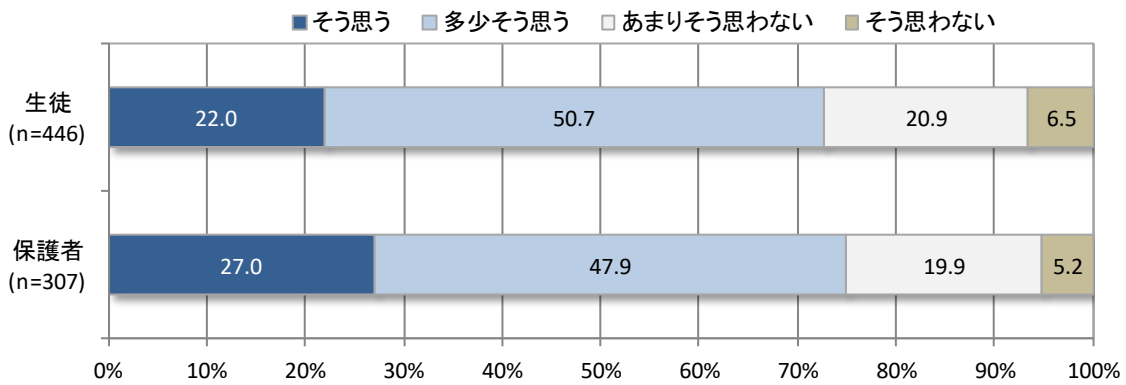


教員と比べ、生徒、保護者の肯定的な回答は低かった。

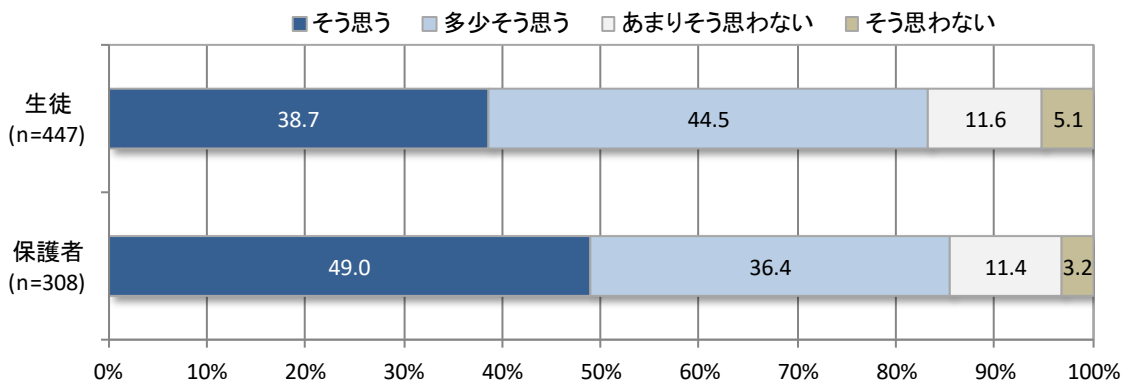
⑩ 生徒の認め合い (p<0.01)



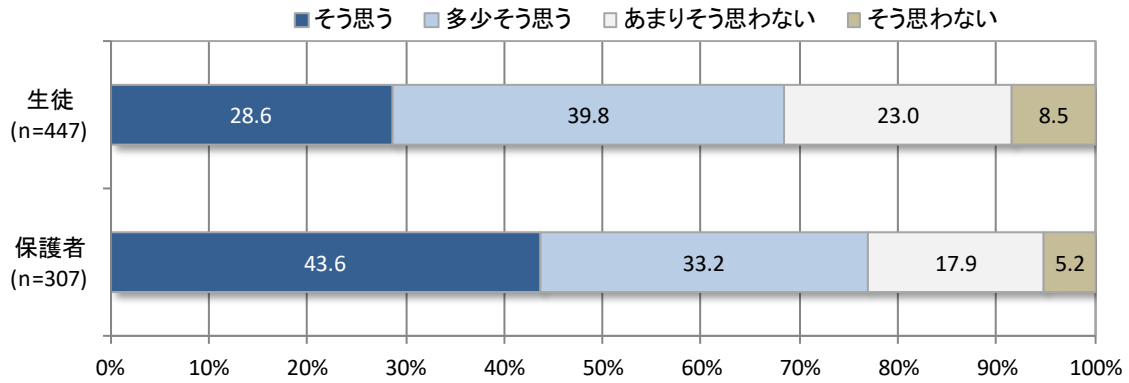
⑪ 教師と生徒の信頼



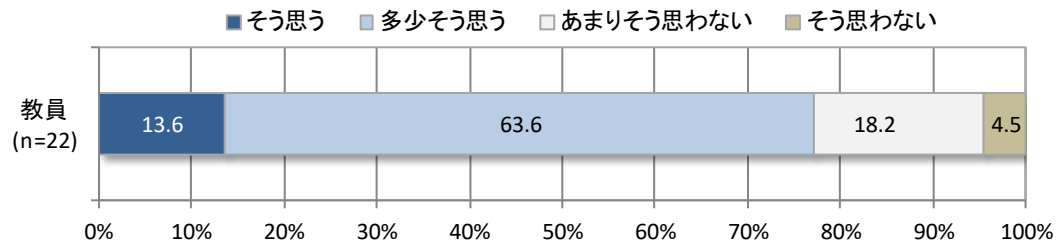
⑫ ふさわしい環境 (p<0.05)



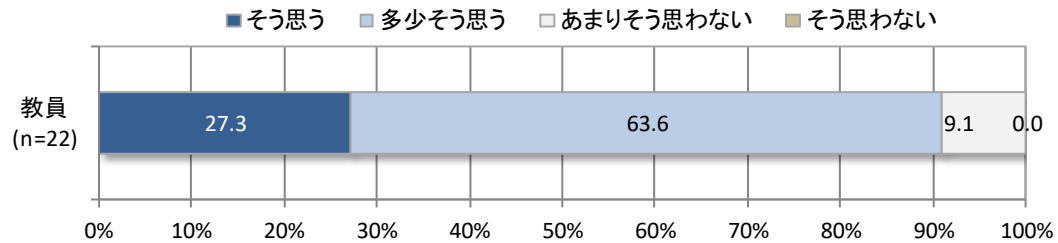
⑱ 目標と努力 (p<0.01)



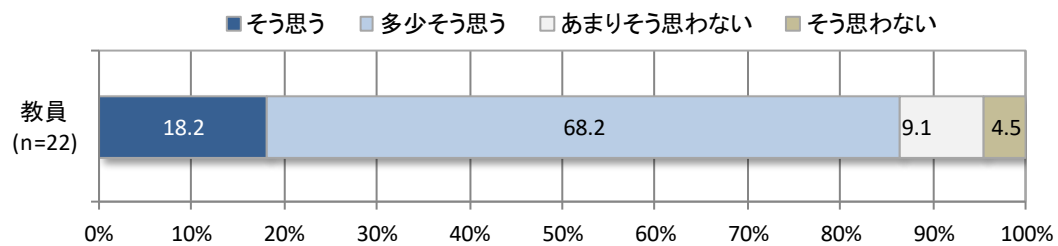
⑳ 保護者に自信を持って対応しているか (教員)



㉑ 職場環境を良くするために努めているか (教員)

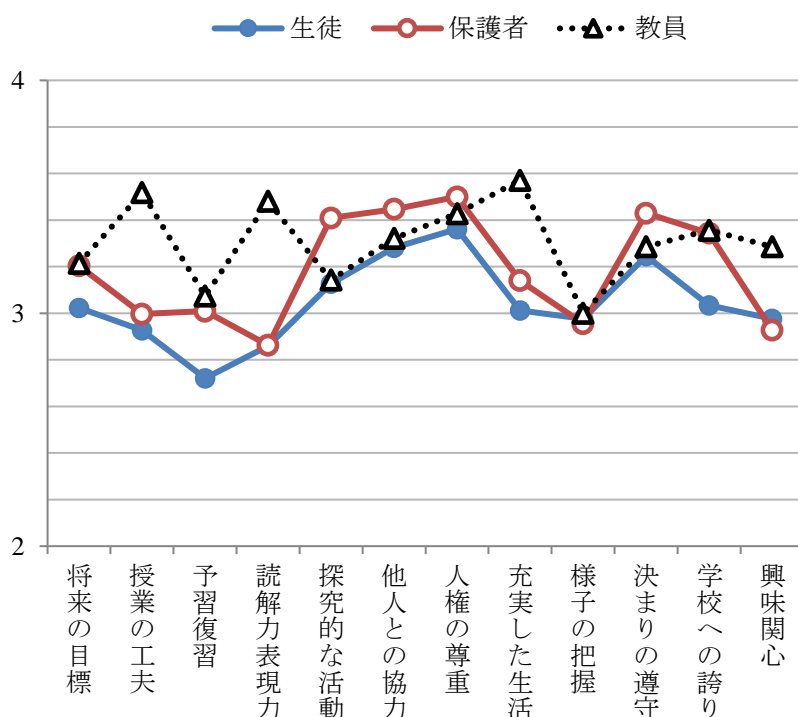


㉒ 熱意をもって日々の仕事に取り組んでいるか (教員)



(4) 学校生活にかかわる自己評価の比較

① 生徒，保護者，教員間比較



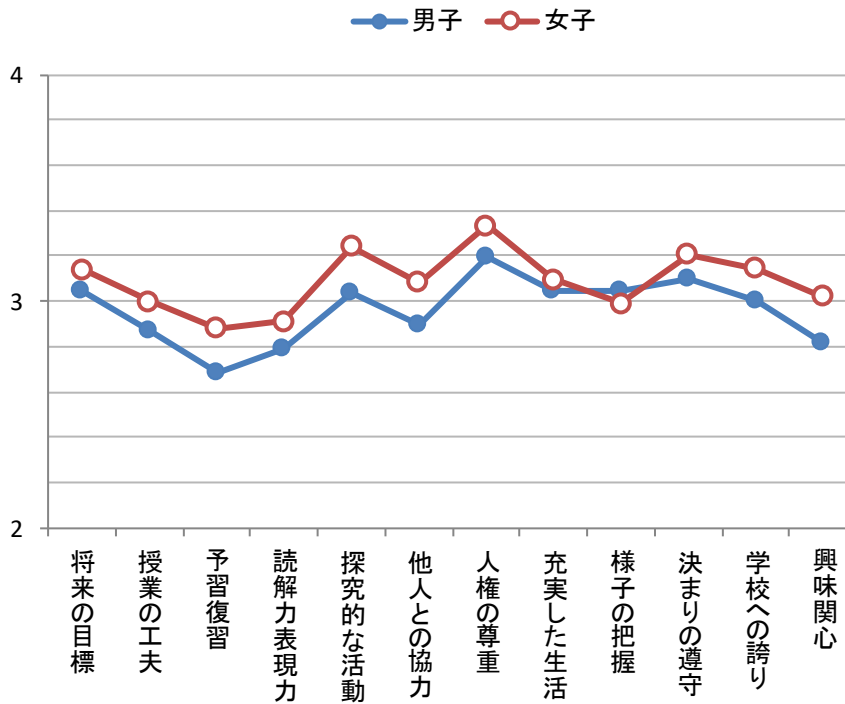
項目	生徒	保護者	教員	F 値	有意水準	多重比較		
将来の目標	3.09	3.18	3.00	1.30				
授業の工夫	2.94	2.89	3.55	6.68	p<0.01	教員>保護者	教員>生徒	
予習復習	2.79	2.97	2.81	3.51				
読解力表現力	2.85	2.76	3.32	4.56	p<0.05	教員>保護者		
探究的な活動	3.14	3.32	3.27	5.33	p<0.05	保護者>生徒		
他人との協力	2.99	3.49	3.36	41.08	p<0.01	保護者>生徒		
人権の尊重	3.26	3.31	3.18	0.49				
充実した生活	3.06	3.09	3.27	0.68				
様子の把握	3.01	3.03	3.00	0.05				
決まりの遵守	3.15	3.41	2.86	13.24	p<0.01	保護者>生徒		
学校への誇り	3.07	3.29	2.86	6.94	p<0.01	保護者>生徒		
興味関心	2.92	2.82	3.05	1.77				

「将来の目標」から「興味を持って授業を受けている（指導目標を理解している）」までの 12 項目に対する回答（1：そう思わない，2：あまりそう思わない，3：多少そう思う，4：そう思う）を比率尺度とみなして，生徒，保護者，教員の各項目に対する回答の平均を算出し，平均の差の推計に一要因分散分析を施した。多重比較には Tukey の方法を用いた。

その結果，「授業の工夫」を始め 6 項目に有意差が認められた。おおむね保護者または教員のポイントが高く，生徒が低いという傾向が見られた。

包括的にポイントを比較すると，「予習復習」，「授業の工夫」といった学習に関わる項目のポイントが低い反面，「人権の尊重」，「他人との協力」といった他者との関わりに関する項目のポイントが高いことがわかる。

② 生徒の性別による比較

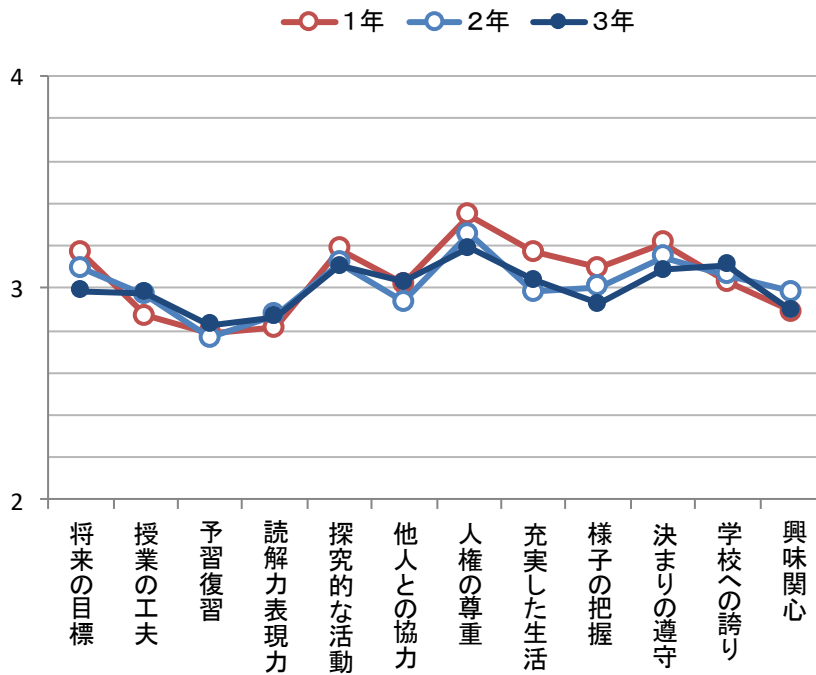


	男子	女子	t 値	有意水準
将来の目標	3.05	3.14	1.173	
授業の工夫	2.87	3.00	1.782	
予習復習	2.68	2.88	2.360	p<0.05
読解力表現力	2.79	2.91	1.554	
探究的な活動	3.04	3.24	2.686	p<0.01
他人との協力	2.90	3.08	2.445	p<0.05
人権の尊重	3.20	3.33	1.934	
充実した生活	3.04	3.10	0.641	
様子の把握	3.04	2.99	0.547	
決まりの遵守	3.10	3.20	1.485	
学校への誇り	3.00	3.15	1.717	
興味関心	2.82	3.02	2.656	p<0.01

生徒の性別ごとに、「将来の目標」から「興味関心を持って授業を受けている」までの12項目に対する回答（1：そう思わない，2：あまりそう思わない，3：多少そう思う，4：そう思う）を比率尺度とみなして平均値を算出し，平均値の差を推計するために対応のないt検定を施した。

その結果、「予習復習」を始め4項目で性差を認めることができた。有意差の有無に関わらず，ほとんどの項目において女子のポイントが男子より高いという結果となっている。「様子の把握」は男女が逆転しているだけでなく，男女差が小さくこのことから対教員との関係性において性差が影響をしていないことを物語っている。

③ 生徒の学年による比較



	1年	2年	3年	F 値	有意水準	多重比較		
将来の目標	3.17	3.09	2.99	6.871	p<0.01			
授業の工夫	2.87	2.97	2.98	3.496				
予習復習	2.79	2.76	2.83	4.385	p<0.05			
読解力表現力	2.81	2.87	2.86	3.678				
探究的な活動	3.19	3.12	3.10	3.382				
他人との協力	3.02	2.94	3.03	4.573	p<0.05			
人権の尊重	3.34	3.25	3.19	4.606	p<0.05			
充実した生活	3.17	2.98	3.04	4.604	p<0.05			
様子の把握	3.09	3.01	2.93	3.500				
決まりの遵守	3.21	3.15	3.09	4.820	p<0.05			
学校への誇り	3.03	3.06	3.11	3.422				
興味関心	2.89	2.98	2.89	6.331	p<0.05			

「将来の目標」から「興味関心を持って授業を受けている」までの12項目に対する回答（1：そう思わない，2：あまりそう思わない，3：多少そう思う，4：そう思う）を比等率尺度とみなして，各学年の生徒の各項目に対する回答の平均を算出し，平均の差の推計に一要因分散分析を施し多重比較には Tukey の方法を用いた。

その結果，7項目で有意差が認められた。しかし，多重比較の結果では，有意となる項目はなかった。包括的に見ると，充実した生活，「様子の把握」で1年生の回答がもっともポイントが高かった。

④ 生徒の学年毎の組別比較

1年

項目	1組	2組	3組	4組	標準偏差
将来の目標	3.10	3.16	3.05	3.37	0.12
探究的な活動	2.62	2.97	2.86	3.05	0.16
読解力表現力	2.72	2.67	2.78	2.92	0.10
授業の工夫	2.72	2.78	2.78	2.95	0.08
予習復習	3.13	3.14	3.05	3.39	0.13
他人との協力	3.08	2.89	2.81	3.18	0.15
人権の尊重	3.28	3.22	3.24	3.58	0.15
決まりの遵守	3.18	3.16	3.05	3.32	0.09
充実した生活	3.15	3.19	2.83	3.16	0.15
様子の把握	3.15	3.14	3.11	3.42	0.13
学校への誇り	2.82	3.06	2.94	3.31	0.18
興味関心	2.85	2.84	2.84	3.00	0.07

2年

項目	1組	2組	3組	4組	標準偏差
将来の目標	3.19	3.23	2.84	3.10	0.15
探究的な活動	2.86	3.25	2.73	3.05	0.20
読解力表現力	2.57	2.97	2.75	2.75	0.14
授業の工夫	2.68	3.00	2.78	2.98	0.13
予習復習	2.95	3.33	3.03	3.23	0.15
他人との協力	2.84	3.16	2.92	2.88	0.12
人権の尊重	2.97	3.49	3.19	3.35	0.19
決まりの遵守	2.84	3.21	2.84	3.03	0.15
充実した生活	2.78	3.36	2.97	2.93	0.21
様子の把握	3.00	3.36	3.14	3.13	0.13
学校への誇り	2.97	3.38	2.95	3.03	0.18
興味関心	2.86	3.23	2.89	2.93	0.15

3年

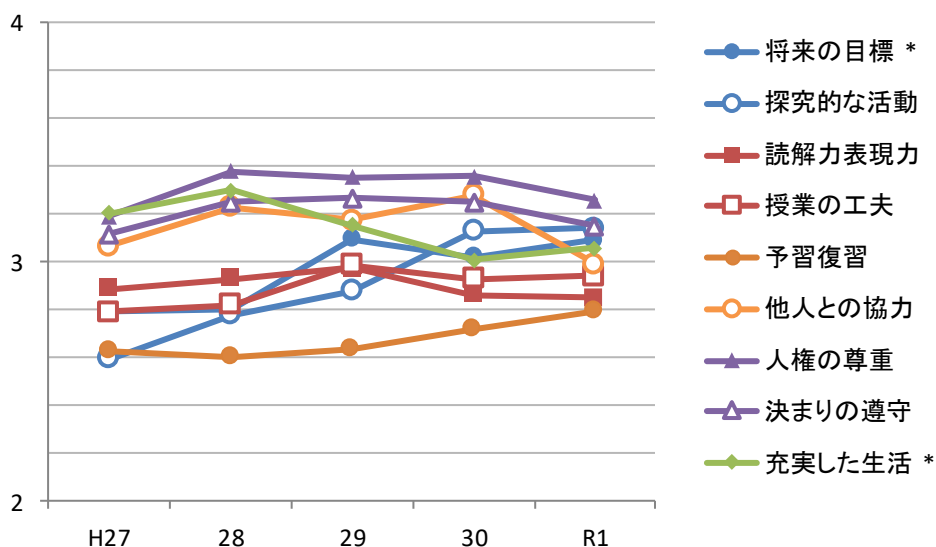
項目	1組	2組	3組	4組	標準偏差
将来の目標	3.00	3.07	3.11	2.95	0.06
探究的な活動	3.03	2.93	2.97	2.84	0.07
読解力表現力	2.94	2.90	2.94	2.57	0.16
授業の工夫	2.82	3.10	3.08	2.54	0.23
予習復習	2.97	3.21	3.25	2.94	0.14
他人との協力	2.85	3.21	3.14	2.97	0.14
人権の尊重	3.18	3.34	3.31	3.00	0.13
決まりの遵守	2.85	3.21	3.25	2.86	0.19
充実した生活	2.82	3.17	3.08	2.72	0.18
様子の把握	3.09	3.28	3.28	2.70	0.23
学校への誇り	3.00	3.14	3.21	3.08	0.08
興味関心	2.97	2.86	3.06	2.73	0.12

「将来の目標」から「興味関心を持って授業を受けている」までの12項目に対する回答（1：そう思わない，2：あまりそう思わない，3：多少そう思う，4：そう思う）を比率尺度とみなして，各学年のクラスごとに各項目に対する回答の平均値と標準偏差を算出した。なお，1～4組は，A～D組には対応しておらず，任意に組み替えを行った。

特に偏差が高い項目，学年は認められなかった。

(5) 調査項目に対する回答の年度推移

○生徒全体



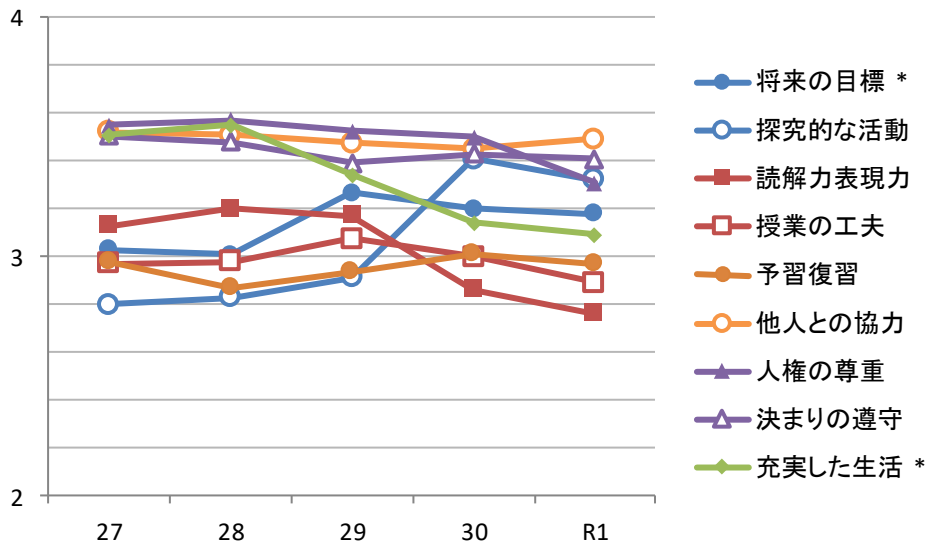
「*」のついた項目は，設問が変更されたため，平成28年度以前との単純比較はできない。

生徒

年度	平成27年度			平成28年度			平成29年度			平成30年度			令和元年度		
	度数	平均	標準偏差	度数	平均	標準偏差	度数	平均	標準偏差	度数	平均	標準偏差	度数	平均	標準偏差
将来の目標*	474	2.79	0.91	481	2.80	0.85	397	3.10	0.78	477	3.02	0.83	447	3.09	0.82
探究的な活動	476	2.59	0.83	480	2.78	0.79	398	2.88	0.79	476	3.13	0.76	444	3.14	0.80
読解力表現力	475	2.89	0.79	481	2.93	0.77	398	2.97	0.78	478	2.86	0.78	447	2.85	0.84
授業の工夫	475	2.79	0.82	480	2.82	0.77	397	2.99	0.76	477	2.93	0.79	448	2.94	0.79
予習復習	476	2.63	0.89	481	2.60	0.82	398	2.64	0.89	477	2.72	0.85	445	2.79	0.88
他人との協力	475	3.07	0.85	480	3.23	0.79	397	3.17	0.78	477	3.28	0.72	446	2.99	0.79
人権の尊重	475	3.19	0.84	480	3.38	0.78	398	3.35	0.77	478	3.36	0.72	447	3.26	0.76
決まりの遵守	476	3.12	0.86	480	3.25	0.78	398	3.27	0.77	477	3.25	0.73	447	3.15	0.78
充実した生活*	468	3.21	0.89	480	3.30	0.83	398	3.16	0.84	477	3.01	0.84	446	3.06	0.87

「探究的な活動」，「将来の目標」のポイントが年を追うごとに増加している。他の項目も概ね増加の傾向にあると思われる。生徒にとって充実した環境の整備が進んでいると考えられる。しかし，「他人との協力」，「人権の尊重」，「決まりの遵守」が減少に転じている。一時的なものか，経過を見守る必要がある。

○保護者



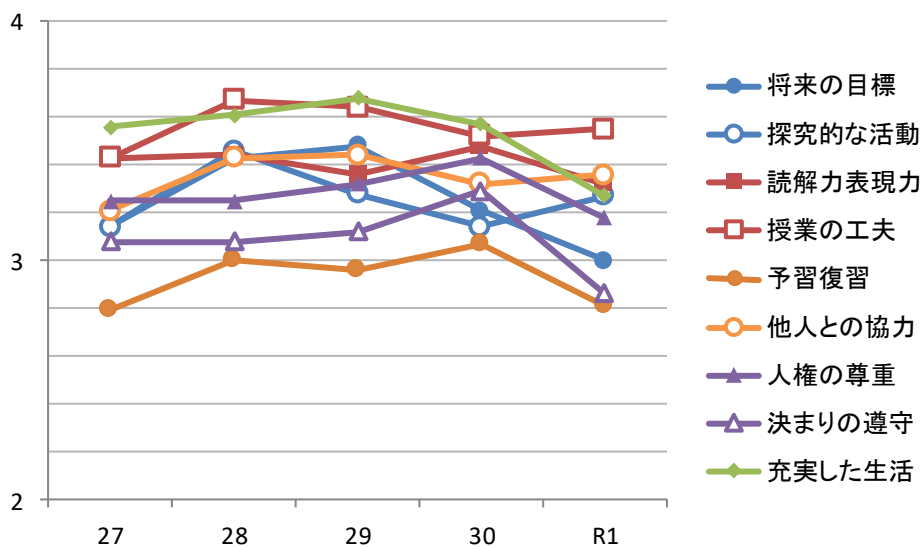
「*」のついた項目は、設問が変更されたため、平成28年度以前との単純比較はできない。

保護者

年度	平成27年度			平成28年度			平成29年度			平成30年度			令和元年度		
	度数	平均	標準偏差	度数	平均	標準偏差	度数	平均	標準偏差	度数	平均	標準偏差	度数	平均	標準偏差
将来の目標*	307	3.03	0.97	327	3.01	0.91	396	3.27	0.76	319	3.20	0.80	308	3.18	0.83
探究的な活動	307	2.80	0.91	327	2.83	0.90	395	2.91	0.87	320	3.41	0.64	308	3.32	0.75
読解力表現力	307	3.13	0.79	327	3.20	0.78	395	3.17	0.76	320	2.86	0.86	308	2.76	0.91
授業の工夫	307	2.97	0.84	327	2.98	0.86	397	3.08	0.82	319	3.00	0.78	307	2.89	0.85
予習復習	307	2.98	0.98	327	2.87	0.96	394	2.94	0.94	320	3.01	0.89	308	2.97	0.97
他人との協力	306	3.52	0.70	325	3.51	0.67	395	3.48	0.66	320	3.45	0.66	308	3.49	0.67
人権の尊重	306	3.55	0.64	326	3.57	0.61	395	3.53	0.62	320	3.50	0.62	306	3.31	0.72
決まりの遵守	305	3.50	0.65	326	3.48	0.67	394	3.39	0.70	319	3.43	0.70	308	3.41	0.75
充実した生活*	304	3.51	0.78	326	3.55	0.73	394	3.34	0.75	320	3.14	0.83	308	3.09	0.86

「他人との協力」を除き、各項目で減少した。これが一時的なものであるのか、経過を見守る必要がある。特に「充実した生活」の減少は注意を要するが、このことが設問の変更に伴う変化であるかどうかの詳細な検証が必要である。

○教員



教員

年度	平成 27 年度			平成 28 年度			平成 29 年度			平成 30 年度			令和元年度		
	度数	平均	標準偏差	度数	平均	標準偏差	度数	平均	標準偏差	度数	平均	標準偏差	度数	平均	標準偏差
将来の目標	28	3.14	.848	28	3.43	.634	25	3.48	0.64	28	3.21	0.72	22	3.00	0.6
探究的な活動	28	3.14	.756	28	3.46	.637	25	3.28	0.66	28	3.14	0.91	22	3.27	0.69
読解力表現力	28	3.43	.690	27	3.44	.751	25	3.36	0.56	27	3.48	0.63	22	3.32	0.70
授業の工夫	28	3.43	.742	27	3.67	.555	25	3.64	0.48	27	3.52	0.74	22	3.55	0.58
予習復習	28	2.79	.833	27	3.00	.679	25	2.96	0.82	27	3.07	0.86	21	2.81	0.85
他人との協力	28	3.21	.787	28	3.43	.573	25	3.44	0.64	28	3.32	0.76	22	3.36	0.64
人権の尊重	28	3.25	.645	28	3.25	.645	25	3.32	0.61	28	3.43	0.73	22	3.18	0.72
決まりの遵守	28	3.08	.740	28	3.08	.784	25	3.12	0.77	28	3.29	0.80	22	2.86	0.76
充実した生活	27	3.56	.577	28	3.61	.497	25	3.68	0.47	28	3.57	0.68	22	3.27	0.62

各項目の変動が激しい。「予習復習」が大きく減少しているが、生徒では増加傾向にあるので、認識の違いが認められる。